大会名 Competition	令和7年度 富山県高等学校総合体育大会バスケットボール競技	場所 Place	富山県西部体育センター
NO. 特4	日時 令和7年6月8日	14:30	

高岡第一	富山商業
------	------

68	19	1Q	19	75
	6	2Q	12	
	20	3Q	19	
	23	4Q	25	
		OT		

Crew Chief	Umpire 1	Umpire 2
竹田 雄介	柳原 弘彰	嘉志摩 有希

高岡第一

NO	PL-IN	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	名畑 洸星(CAP)	11	3	1	0	2
5	×	上田 雄和	15	1	3	6	4
6	/	表 俊太郎	9	0	4	1	5
7	/	柴田 大暖	0	0	0	0	0
8		横山 駈	0				
9	×	田中 優蒼	23	3	5	4	1
10		江尻 正兜	0				
11	/	上野 泰盛	2	0	1	0	0
12	×	中村 藍志	4	0	1	2	4
13	/	橋場 弘征	2	0	1	0	0
14	/	白木 颯太	0	0	0	0	1
15	/	澤田 新	2	0	1	0	1
16	×	堂尻 偉琉	0	0	0	0	0
17		矢野 拓翔	0				
18		富居 央樹	0				
コーチ		坂本 堯志					
Aコーチ		太田 晴					
		合計	68	7	17	13	18

富山商業

NO	PL-IN	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	新木 敬大(CAP)	23	1	8	4	3
5	/	刀野 翔	6	0	1	4	2
6	/	松本 僚太	0	0	0	0	0
7	×	松田 禅生	26	5	4	3	2
8	/	藤壺 隼斗	0	0	0	0	0
9	/	亀山 奏良	4	0	2	0	1
10	×	岩本 仁輝	3	0	1	1	5
11	×	志鷹 陽	4	0	2	0	3
12	/	油谷 実海	3	1	0	0	0
13		笹岡 蒼太	0				
14		村椿 琉那	0				
15	×	富田 一颯	6	0	2	2	4
16		浅野 芯	0				
17		市川 凜空	0				
18		小幡 悠聖	0				
コーチ		荒川 和樹					
Aコーチ		坂本 康耀					
		合計	75	7	20	14	20

戦評

※ ×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Qは高岡第一ボールでスタート、両チームともマンツーマンDFから入る。先取点は高岡第一#5のドライブからの2P。両チームともアウトサイドからのドライブでキックアウトシズレを作るものの決勝戦の緊張感もあり、流れを引き寄せることはできない。残り3分、13対13の同点。ここから、高岡第一はドライブから富山商業のファウルを誘い、フリースローをもらい冷静に2本とも沈める。残り10秒、高岡第一#5のドライブが決まり、優勢かと思いきや、残り3秒で富山商業#7の3Pが決まり19対19の同点で1Qを終了した。

2Qは両者の堅守が光りロースコアとなった。お互いにゾーンDFからの速攻を狙うもののなかなか得点を重ねることができない。残り5分、22対22の同点の場面で、富山商業#7の3Pで均衡を崩す。富山商業に流れが傾くと思われた矢先、残り3分、こぼれ球から高岡第一の速攻が決まり得点。2Q残り1分、富山商業#12の3Pから、富山商業#5のフリースローで連続得点。すかさず、高岡第一はタイムアウトを取り流れを断ち切る。2Q残り10秒、富山商業#7のジャンパー、高岡第一#5のドライブで得点を狙うが、両者リングに嫌われ得点ならず。25対31の富山商業が6点のリードで2Qを折り返す。

3Qは富山商業はマンツーマンDF、高岡第一はゾーンDFで迎え撃つ。3Qは高岡第一のシュートタッチが光り、立ち上がりから高岡第一#4、#5合わせて3本の3Pを決め、34対35と追いつき始める。3Q残り5分、高岡第一#9の3Pが決まり、37対37の同点となる。3Qの終盤は点の取り合いとなるが、富山商業が3Pとレイアップを確実に決めて流れは富山商業へ。45対50で富山商業が5点リードで3Q終了。

最終決戦の4Q。客席は満席であり応援にも熱が入る。立ち上がりは、高岡第一#13の速攻、富山商業#7のこの日4本目の3Pで得点が動く。残り7分、富山商業が堅実に得点を重ね10点差に開いたところで、高岡第一2回目のタイムアウトで流れを切る。残り5分、高岡第一はオールコートプレスでボールを前から奪いに行き速攻に繋げる。残り1分30秒、高岡第一#9の3Pで65対73の8点差に迫る。しかし、富山商業は冷静なボール運びで時間を使いタイムアップ。68対75で富山商業が接戦を逃げ切って終了となる。富山商業は11年ぶり16回目の優勝となり、決勝にふさわしいといえる好ゲームであった。